

引かれていく牛

小川未明

青空文庫

もうじきに春はるがくるので、日ひがだんだんなくなりました。晩方ばんがた、子供こどもたちが、往おうら来あそで遊あそんでいました。孝こうちゃんと、勇ゆうちゃんと、年としちゃんは、石いしけりをしていたし、みつ子こさんとよし子こさんは、なわとびをしていました。うす緑みどりいろ色の空そらに、頭あたまをならべている木々きぎのこずえは、いくらか色いろづいているように見みえました。いろいろの木きの芽めが、もう出でようとしているのです。ちようど、このとき、あちらから黒くろいものが、こちらへ、のそり、のそりと歩あるいてきました。

「あれ、お牛うしよ。」と、いちばん先さきにみつけたよし子こさんがいいました。

「どうしたんだらうね。」と、年としちゃんが、いいました。

子供こどもたちの目めは、みんなその方ほうへそがれました。そして、遊あそぶのを忘わすれて、道みちばたによつて、通とおりかかる牛うしを見送みおくつていたのでありました。

牛うしは、年としをとっているように思おもわれました。なぜなら、毛けなみがうすくなつて、若わかい時じ分ぶんのようにつやがなかったからです。それに、この牛うしは長ながいこと、田たや、畠はたけで働はたらいていたか、それとも重おもい荷にをつけた車くるまを引ひいていたので、かたのあたりけの毛けはなくなつて、皮かわが

出ていました。これを見た子供たちは、いいあわせたように、

「かわいいそうに。」と、心に思ったのです。

子供たちが、自分に同情してくれることも知らずに、牛は、のそり、のそりと歩いてきました。そして、いかにも、歩くのがいやそうに見えました。牛を引く男は、日が暮れてしまうのが気にかかるので牛を急がせようと、なわのはしで、ピシリと牛のしりをたたきました。すると、牛は、はつとして、そのときは歩みを早めたが、またいつのまにか、のそり、のそりとなるのでした。

「歩いていくのがいやなんだね。」と、勇ちゃんが、いました。

「そうよ、きつと殺す場所へ引れていかれるのを知っているのよ。」と、よし子さんが、いました。

「そうじゃないだろう。」と、孝ちゃんが強くうちけしました。

「いえ、いつか、ああして牛が連れていかれるのを見たとき、兄さんが、そういったわ。」と、よし子さんがいました。

「かわいそうだな。」と、勇ちゃんと年ちゃんが、大きな声で、いっしょにさげびました。いっしか牛の姿は、だんだん遠くなつてしまいました。みんなは、牛が見えなくなるま

で、その方を見送っていました。二度とたのしく遊ぶ気にはなれませんでした。

「ほんとうに、牛は知っているんだね。」

「それはわかるさ。そして、逃げられないということも知っているのだ。」

「明日のいまごろは、もうお肉になって、町へ出るのだな。」

「わたし、お肉たべないわ。」

「私も。」

みつ子さんとよし子さんが、そういうと、

「そんなら、くつものはけないよ。」と、勇ちゃんがいったので、みんな笑ってしまいました。

空に星が光って、人の顔が、はつきりわからなくなったので、みんなは、てんでに明るいお家へかえりました。孝ちゃんのお母さんは、赤ちゃんをおぶって、おしごとをしていられました。二、三日前から、赤ちゃんは、気分がわるいので、お母さんは、もういく夜もろくろくねられませんでした。

「坊や、どうなの。」と、孝ちゃんがききました。

「今日は、いくらかいよいよです。」と、お母さんは、おっしゃいました。

孝こうちゃんは勉べん強きやうがすむと、いつものように、先さきに床とこへはいりました。そして、しばらく目めをあけて、

「あの牛うしは、どうしたろう。」と、思おもっていました。

ほかの子供こどもたちも、たぶん家いえにかえつてからも、牛うしのことを思おもっていたでしょう。

翌よく日じつ、学が校っこうのつづり方かたの時間じかんに、孝こうちゃんは、昨きのう日の晚ばん方がた、引ひかれていった牛うしのことを書かいて、

「はたらいた末すえに殺ころされる牛うしは、なんというかわいそうなんだろう。」と、つけくわえました。

ほんとうに感かんじたことをあらわしたので、たいへんによくできたと先せん生せいはおほめになりました。そして、このつづり方かたを、先せん生せいは、みんなに読よんできかされてから、

「だれでも、大おおきくなつて、もし親おや不ふ孝こうをするならば、お母かあさんをこの牛うしのようなめにあわせるものだ。」といわれました。

孝こうちゃんは、なるほどと、先せん生せいのいわれたことを深ふかく心こころに感かんじたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「僕はこれからだ」フタバ書院成光館

1942（昭和17）年11月

初出：「いへみん三年生」

1941（昭和16）年3月

※表題は底本では、「引《《ひ》かれていく牛《うし》》」となっています。

※初出時の表題は「引かれて行く牛」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2018年10月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

引かれていく牛

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>